

地方都市の若者流失にSNS/インターネット利用 が及ぼす影響

最上谷 友哉¹・二宮 仁志²

¹非会員 東洋大学 理工学部都市環境デザイン学科 (〒350-8585 埼玉県川越市鯨井2100)

E-mail: s16E01400362@toyo.jp

²正会員 東洋大学准教授 理工学部都市環境デザイン学科 (〒350-8585 埼玉県川越市鯨井2100)

E-mail: ninomiya@toyo.jp

本研究は、若者のSNSやインターネットの使用頻度と情報と将来（卒業後）暮らしたいまちの関連性を調査・分析することで、若者が地方都市から流出する要因ならびに活性化方策を検討する際の基礎的知見を得ることを目的とした。今後、進学や就職をひかえる地方都市在住の高校生を対象に、アンケート調査を実施し、都市部への関心や情報源等について明らかにした。その結果、SNS/インターネットの利用頻度が高いほど、大都市に対しあこがれを抱き、将来的にも大都市に就職・定住したいという傾向が有意となるなど、SNS/インターネットの日常的（高頻度）利用は、地方都市在住の若者（高校生）が大都市へ指向する動機付けの1要因となる可能性が示唆された。

Key Words : local cities, population outflow, the youth, Internet service and SNS

1. 背景と目的

近年、我が国の地方都市では、人口減少・少子高齢化の進展、都市部への人口流出が進行するなど、地域の活力が低下して来ている。2015年の日本の総人口は約127百万人であったが、2030年には約119百万人、2050年には100百万人を割り、2060年には約93万人まで減少すると推定されている¹⁾。三大都市圏の人口のみ着目すると、年々増加の傾向を辿っており、地方都市から三大都市圏への人口流出が地方の人口減少に拍車をかけているといえる。

秋田県湯沢市も人口減少に悩まされている地方都市の1つである。湯沢市の人口は、1955年に79,727人であったが、2010年には50,849人まで減少、2040年には約28,000人にまで減少すると推測されている²⁾。かつて活気に溢れていた駅前商店街は、現在は大半がシャッターを下ろし、市内の小中高校は統合し、街には昔あった賑わいを感じることはできない。

総務省によると、現在、我が国のインターネット人口普及率は83.5%（2016年現在）に達し、SNS年代別利用率は、10代で81.4%、20代では97.7%（いずれも2016年現在）³⁾と若年層にも浸透しているといえる。現在の若者は、SNSやインターネットをはじめ、ファッションやエンターテインメント等の各種情報誌など、多様な情報媒体が取り巻く環境下で生活している。

2017年末、内閣総理大臣の安倍晋三は懇談会の席上で「地方活性化の鍵はSNSにある」と発言し、山口県の神社が海外メディアの紹介で観光客が増えたことを引き合いに「SNS映えが地方都市活性化のキーになる」との意向を示す記事が報じられた⁴⁾。

SNS/インターネットは、地方都市に観光客を呼び込む誘因等として期待される一方で、定住に結びつくケースは少なく、長期的かつ持続可能な活性化はあまり期待できないとの指摘もある⁵⁾。

本研究は、若者のSNSやインターネットの使用頻度と情報と将来（卒業後）暮らしたいまちの関連性を調査・分析することで、若者が地方都市から流出する要因ならびに活性化方策を検討する際の基礎的知見を得ることを目的とした。今後、進学や就職をひかえる地方都市在住の高校生を対象に、アンケート調査を実施し、都市部への関心や情報源等について検討を試みた。

2. アンケート調査の概要

(1) 調査の目的と手法

本研究で試みたアンケート調査の概要を以下に示す。本調査は、地方都市在住の若者の意識調査を通じて、SNS/インターネットの利用状況と地方都市からの若者流出の関係について分析することを目的とした。地方都市に立地する秋田県立湯沢高等学校を対象とした。受験を

控えた3年生は避け、協力の得られた2学年全194名を対象とした。アンケートは、2学年のクラス毎（5クラス）に行った。クラス間の差違や心理的バイアスを可能な限り少なくするため、本調査の趣旨ならびに規約（調査結果は成績評価をもとより、他のことに一切使用しない等）について十分説明を行い、先生にも退出してもらい後に、質問紙に率直な意見を記入するよう求めた。ホームルームの時間を活用し、生徒が負担を感じず回答できるよう、10設問、所要時間10分程度、選択式とした。当該アンケート調査に用いた設問用紙を図-1に示す。

(2) 調査における主な仮説

本アンケート調査項目の検討に先立ち、以下の仮説を設定した。

〔仮説1〕 SNS/インターネットの使用頻度が高いほど、大都市に対し憧れを抱いているのではないかと。

〔仮説2〕 SNS/インターネットの使用頻度が高いほど、高校卒業後に地元（秋田県湯沢市）を離れ大都市へ進学したいと考えるのではないかと。

〔仮説3〕 SNS/インターネットの使用頻度が高いほど、将来的にも大都市に就職・定住したいと考えているのではないかと。

また、若者が地方を離れたいと思う動機の一つに、大都市にある遊び場や多様な娯楽サービスが十分でないためではなかとの仮説のもと、何があれば、将来、湯沢市（地方都市）に定住したいと思うかについて調査した。

情報の利用と湯沢市活性化に関するアンケート

- ・ このアンケートは、本研究目的以外に使用されることはありません。
- ・ 該当する項目1つに「Q」をつけてください。

性別（男・女）

- あなたは、SNS (Twitter, Instagram, Facebook 等) やインターネットを利用しますか？
1. しない 2. あまりしない 3. 時々する 4. まあまあする 5. ほぼ毎日する
「1. しない」と回答した方のみ、質問4へお進み下さい。
- 秋田県内の記事・情報を閲覧しますか？
1. しない 2. あまりしない 3. 時々する 4. まあまあする 5. ほぼ毎日する
- 大都市（東京、大阪、仙台など）の記事・情報を閲覧しますか？
1. しない 2. あまりしない 3. 時々する 4. まあまあする 5. ほぼ毎日する
- あなたの主な情報収集源は何ですか？
1. SNS 2. インターネット 3. TV 4. 新聞・雑誌 5. その他
- 大都市（東京、大阪、仙台等）に対して憧れはありますか？
1. ない 2. あまりない 3. ふつう 4. まあまあある 5. かなりある
- 何に最も影響を受け、質問5)の回答に至りましたか？
1. SNS 2. インターネット 3. テレビ 4. 新聞、雑誌 5. 知人の話 6. その他
- 高校卒業後は、どのような場所(まち)で進学したい、住みたいと思いますか？
*現在の自分の学力や金銭面等は考えず、率直な意見をお願いします。
1. 秋田県内 2. 秋田県外の地方都市 3. 大都市 4. その他（海外等）
- 将来(大学、専門学校卒業後)は、どのような場所(まち)に就職し定住したいと思いますか？
1. 地元（湯沢市） 2. 秋田県内(地元以外) 3. 秋田県外の地方都市 4. 大都市
5. その他（海外等）
- 何があれば、将来このまち（湯沢市）に定住したいと思いますか？
また、たくさんの若者が定住(移住)すると思いますか？
1. 無料 Wi-Fi スポット 2. カフェ（スターバックスなど） 3. セレクトショップ（洋服等）
4. 大型ショッピングモール 5. レジャースポット 6. その他（ ）
- 10) SNS、インターネット等は、湯沢市など地方都市を活性化させるといいますか？
1. 思わない 2. あまり思わない 3. どちらとも言えない 4. まあまあ思う 5. そう思う

図-1 当該アンケート調査に用いた設問用紙

3. 調査結果

平成30年8月31日～9月3日（4日間）にアンケート調査を実施し、欠席者ならびに協力同意の得られなかった生徒を除き175名から有効回答（欠損無し）を得た。その内、1名はSNS/インターネットを全く利用していなかったため除外し、174名を解析対象とした。

本調査における設問項目（順序変数）の記述統計量について表-1に整理した。1)の結果（平均 4.48）より殆どの学生がほぼ毎日インターネットを閲覧していることが分かった。2), 3)の結果より、県内・大都市に限らず興味のある記事を閲覧する傾向が伺える。5)の結果より、学生は少なからず大都市（東京、大阪、仙台等）に対してあこがれを抱いていることが分かった。10)の結果より学生はSNS/インターネットは地方活性化の鍵になると感じていることが分かった。

表-1 設問項目（順序変数）に係る記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1	174	1	5	4.48	0.972
Q2	174	1	5	2.72	1.077
Q3	174	1	5	2.81	1.145
Q5	174	1	5	3.53	1.243
Q10	174	1	5	3.78	1.157

仮説1～3を検証において、男女間の相違を考慮するため全ての重回帰モデルの説明変数に性別（sex）を加え、重回帰分析を試みた。以下(1)～(3)に解析結果を示す。ここで、有意水準は0.05とした。

(1) 仮説1の解析結果

仮説1は、設問5)（以下「Q5」）を従属変数に、設問1)（以下「Q1」）と sex を説明変数とした重回帰分析を行うことで検証を試みた。その結果を表-2（上段）に示す。SNS/インターネットの利用頻度が高いほど、大都市に対しあこがれを抱く傾向が有意に認められた（ $p<0.05$ ）。また、主な情報収集源が異なると、大都市に対し憧れを抱く傾向にあるかについて、Q5 を従属変数に、設問4)（以下「Q4」）と sex を説明変数とし分析（表-2（下段））したところ、有意な関係性は認められなかった（ $p=0.112$ ）。

表-2 SNS/インターネット利用と大都市へのあこがれに関する重回帰分析結果

モデル1	非標準化係数		各係数の95.0%信頼区間		
	係数	標準誤差	有意確率	下限	上限
(定数)	2.194	0.457	0	1.291	3.096
sex	-0.312	0.183	0.091	-0.673	0.05
Q1	0.337	0.094	0	0.151	0.523
(定数)	4.598	0.242	0	4.12	5.076
sex	-0.29	0.181	0.112	-0.648	0.068
Q4	-0.29	0.181	0.112	-0.648	0.068

a 従属変数 Q5

(2) 仮説2 調査結果

仮説2は、設問7) (以下「Q7」) を従属変数に、設問1) (以下「Q1」) と sex を説明変数とした重回帰分析を行うことで検証を試みた。その結果を表-3 (上段) に示す。SNS/インターネットの利用頻度が高いほど、卒業後に地元を離れ大都市へ進学したいという傾向は認められたが有意差を検出するには至らなかった ($p=0.055$)。また、Q7 を従属変数に、Q4 と sex を説明変数とし分析 (表-3 (下段)) した結果、主な情報収集源が異なると、卒業後に大都市へ進学したいと思う傾向に有意に影響を及ぼすことが分かった ($p=0.001$)

表-3 SNS/インターネット利用と卒業後の進学先に
関する重回帰分析結果

モデル2	非標準化係数		各係数の95.0%信頼区間		
	係数	標準誤差	有意確率	下限	上限
(定数)	1.614	0.284	0	1.053	2.175
sex	0.042	0.114	0.714	-0.183	0.267
Q1	0.113	0.058	0.055	-0.002	0.228
(定数)	2.543	0.149	0	2.249	2.838
sex	0.067	0.112	0.55	-0.154	0.288
Q4	-0.236	0.073	0.001	-0.381	-0.092

a 従属変数 Q7

(3) 仮説3 調査結果

仮説3は、設問8) (以下「Q8」) を従属変数に、設問1) (以下「Q1」) と sex を説明変数とした重回帰分析を行うことで検証を試みた。その結果を表-4 (上段) に示す。SNS/インターネットの利用頻度が高いほど、将来的にも大都市に就職・定住したいという傾向が有意に認められた ($p=0.018$)。また、Q8 を従属変数に、Q4 と sex を説明変数とし分析 (表-4 (下段)) した結果、主な情報収集源が異なると、将来的に定住先 (大都市) に有意に影響を及ぼすことが分かった ($p=0.001$)

表-4 SNS/インターネット利用と将来的に定住先に
関する重回帰分析結果

モデル3	非標準化係数		各係数の95.0%信頼区間		
	係数	標準誤差	有意確率	下限	上限
(定数)	1.752	0.391	0	0.979	2.524
sex	0.18	0.157	0.252	-0.129	0.49
Q1	0.192	0.081	0.018	0.033	0.351
(定数)	3.222	0.206	0	2.814	3.629
sex	0.207	0.155	0.183	-0.099	0.512
Q4	-0.337	0.101	0.001	0.537	-0.137

a 従属変数 Q8

4. 高校生の視点で考える湯沢市の活性化

若者が地方を離れたと思う動機の1つに、大都市にある遊び場や多様な娯楽サービスが十分でないためではないかとの仮説のもと、何があれば、将来、湯沢市 (地方都市) に定住したいと思うかを調査 (設問10) した。その結果を図-2 に示す。地元で定住する要件として、46%が大型ショッピングモールを、次いでカフェ (17%)

やレジャースポット (16%) を挙げていた。その他 (自由回答) にも、仕事や交通利便性をあげる回答が (12%) 見受けられた。また、設問10 (以下「Q10」) の回答結果を図-3 に示す。若者 (湯沢高校2年生) の約68%は SNS/インターネットを地方都市活性化の要因になると回答している。次に SNS/インターネットの利用頻度が高いほど、地方都市は活性化すると考える学生が多くなるかについて検討した。Q10 を従属変数に、Q1 と sex を説明変数として重回帰分析を試みた。その結果を表-5) に示す。SNS/インターネット利用頻度は、地方都市活性化に有意な影響を及ぼさない結果となった ($p=0.809$)。これは、近年、若者の間で流行している「SNS 映え」が、地域の情報発信・活性化に良い影響を与えるとのイメージが学生の中に膨らんだためと思われる。

表-5 SNS/インターネット利用と地方都市の活性化に
関する重回帰分析結果

モデル4	非標準化係数		各係数の95.0%信頼区間		
	係数	標準誤差	有意確率	下限	上限
(定数)	3.668	0.448	0	2.785	4.552
sex	0.024	0.179	0.894	-0.33	0.378
Q1	0.022	0.092	0.809	-0.159	0.204

a 従属変数 Q10

9) 何があれば、将来湯沢市に定住したいと 思いますか。また、たくさんの若者が 定住(移住)すると思いますか。

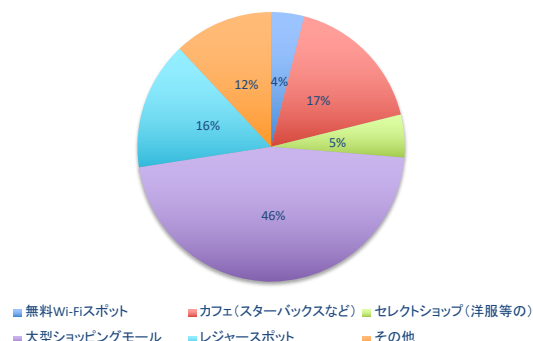


図-2 若者の視点で考える活性化案

10) SNS/インターネット等は湯沢市などの 地方都市を活性化させると思いますか。

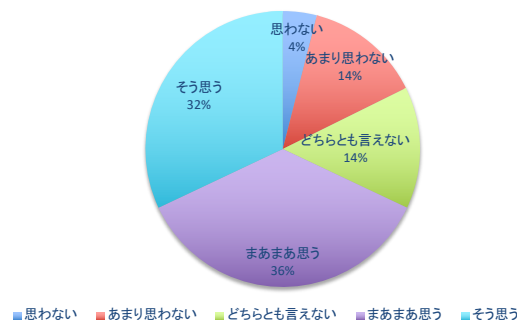


図-3 設問10の回答結果

5. 結論

本研究は、若者の SNS/インターネットの使用頻度と情報と将来（卒業後）暮らしたいまちの関連性を調査・分析した。本研究の範囲内で以下のことがいえると考えられる。

(i) SNS/インターネットの利用頻度が高いほど、大都市に対しあこがれを抱く傾向がある。

(ii) SNS/インターネットの利用頻度が高いほど、将来的にも大都市に就職・定住したいという傾向がある。

(iii) 主な情報収集源が異なると、卒業後に大都市へ進学したいと思うか、ならびに、将来的に定住先（大都市に就職・定住したい）に有意に影響を及ぼす。

なお、僅かに有意差検出に至らなかった ($p=0.055$) が、SNS/インターネットの利用頻度が高いほど、卒業後に地元を離れ大都市へ進学したいという概ねの傾向はあると思われる。

以上の分析結果から SNS/インターネットの日常的（高頻度）利用は、地方都市在住の若者（高校生）が大都市へ指向する動機付けの 1 要因となる可能性が示唆された。また、SNS/インターネットの利用を通じて、大都市に対して、あこがれや関心が喚起され、高校卒業の進路選択において大都市を指向する学生も少なくないと思われる。著者自身も SNS/インターネットを通して都会にある“輝き”にあこがれ都市部の大学を選択、地元（秋田県）から上京して来た一人である。地方都市にあって大都市には無い良さ、大都市にはあって地方都市にある良さが存在し、その良さを簡便かつ効率的に発信・拡散できるのが SNS/インターネットの魅力の 1 つである。SNS/インターネットは、地方都市活性化の鍵でもあ

る反面、地方都市からの若者流出を助長する側面も有しているといえ、今後、その特性を活かした地方独自の活用方策が求められるものと考えられる。

今回、地方都市の 1 つである秋田県内の公立高校のみの調査であった。また、生徒の背景因子も性別以外は同様のものとして取り扱った。県内の他の高校、他県の同年代の高校生も同様の傾向を示すかについての検証等は、今後の研究課題である。最後に、地方に 1 人でも多くの若者が住み、地域を活性化させ、持続可能な社会を構築する一助となるよう研究活動を継続していきたい。

謝辞：本アンケート調査実施にあたり、貴重なご指導ご尽力を賜りました秋田県立湯沢高等学校の教員ならびに 2 年生の皆さんに厚くお礼を申し上げます。

参考文献

- 1) 総務省：平成 29 年版 情報通信白書 - 人口減少社会の課題と将来推計 - 2017.
- 2) 秋田県湯沢市マスタープラン
- 3) 総務省：平成 29 年版 情報通信白書 - スマートフォン経済の現在と将来 - 2017.
- 4) 貞包英之：「SNS 映え」で観光客も増えたが地方が、活性化しないのはなぜか…? - 「SNS 映え」する地方 - 講談社 - 2018. 04. 20
- 5) 貞包英之：「SNS 映え」で観光客も増えたが地方が、活性化しないのはなぜか…? - 貞包英之：「関係人口」と消費者の集団 - 講談社 - 2018. 04. 20

(2018.10.15 受付)

THE EFFECTS OF INTERNET ON THE DECLINE OF A CITY AND THE OUTFLOW OF YOUNG PEOPLE

Yuya MOGAMIYA, and Hitoshi NINOMIYA

The purpose of this study is considering the factors of flowing out young people using internet service such as SNS from local cities. In order to clarify the relationship between the use of the Internet service and the city they want to live in the future, we attempted a questionnaire surveys for highschool students who live in Yuzawa city, Akita. As a result of that it was suggested high frequency use of the Internet service is one of motivation for young people towards the big cities, and that also has a negative aspect that encourages the outflow of young people from local cities.